

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境学習課
						課長名	池田
<b>事業名</b>	北九州環境みらい学習システム推進事業					施策番号	
						I - 3 - (3) - ①	
<b>事業概要</b>	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等を結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行います。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		6,914 千円	千円		5,650 千円	係長 0.15 人 職員 0.40 人	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	さらに効果的な学習の仕組みを構築するため、各環境学習施設における学習プログラムの実態調査結果をふまえて検討した方向性を勘案しながら、着実に取り組んでいく必要があります。	<b>見直し内容</b> 当事業を、本市の環境学習拠点である環境ミュージアムを中心に進めることとし、効果的な学びの支援を行う「環境学習コンシェルジュ」を設置します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりに向けて、原動力となる「市民環境力」の醸成・向上を目指し、低炭素社会の基礎知識から実践フィールドまでを学ぶことを通じて、ライフスタイルの変革などの行動を起こすことのできるあらゆる世代の人財を育成します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>	
	行動変革を実行する市民環境力を醸成・向上させる	70.9 %	81.0 %			
	環境への取組において行動変革を実行することは、市民一人ひとりが日々の生活の中で身近にできることから始めることが重要となることから、「アンケート調査」内の毎日の暮らしの中で環境活動を行っている人の比率(各取組の平均)を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 95% (2030年度)					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 本市の充実した環境学習施設や先進の取組み・施策を資源として、幅広い市民に周知するとともに、楽しく効果的な学べる仕組みづくりを進めるため、環境コンシェルジュを中心として、 ○幅広い世代のニーズに応じた学習支援 ○各施設等で実施している学習プログラムの把握と連携とその成果として、広報誌、ホームページ等による情報発信の強化の取組みのほか、継続してエコツアーの企画・実施・推進、システムを支える継続した人材育成などを行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>活動の状況評価理由</b>	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>		<b>27年度実績 (達成率)</b>
	環境学習コンシェルジュによる学習支援件数	-	260 件		
	エコツアー参加者数	6,444 人	6,200 人		
	エコライフの推進などの行動変革に向け、導入となる環境学習への関心・意欲を示す指標です。今後はツアーのビジネス化等民間事業者などが主体的に実施する仕組みづくりを推進します。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境学習課
<b>事業名</b>						課長名	池田
						<b>事業概要</b>	
環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務						I - 3 - (3) - ②	
北九州市の環境の取組みの歴史を継承するとともに、本市の環境力をさらに高めるため、学習・情報発信・活動の3つの機能を備えた、環境学習拠点「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」の管理運営を行います。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.15 人 係長 0.30 人 職員 0.60 人
		75,910 千円	千円			9,225 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	地域の環境リーダーとして活動を期待する環境サポーターの活動の充実化を図り、環境ミュージアムガイドや活動団体との協働等により、各サポーターの得意分野等を活かした活動の広がりを目指します。また、幅広い世代のサポーターを取り込み、メンバーの充実化を図ることが求められています。	見直し内容 活動のスキルアップや多様化を目指し、 ○環境ミュージアムガイドや環境学習コンシェルジュ等との連携強化 ○出張ミュージアムをはじめとした積極的な地域等での啓発活動 ○新たな手法による、多世代のサポーターの取込み などに取組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 環境サポーター	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 環境ミュージアムを拠点として活動している、市民ボランティアである環境学習サポーターを地域における環境活動の推進を担う環境リーダーへと育成します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数(単年度) 育成されたサポーターは、地域の環境リーダーとして、学校や市民センターなど地域に出かけて活動します。そのため、ミュージアム外の活動である「出張ミュージアムの回数」を指標としました。目標については、H21-23の3か年の平均(97回)を基準としました。 (最終目標と目標年度)平成30年度まで毎年度97回	83 回	97 回		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 地域の環境学習・活動を推進する環境リーダーとなるべく、活動のスキルアップや多様化を図るための学習会の充実化を図るとともに、 ○環境ミュージアムガイドや環境学習コンシェルジュとの連携による、活動のレベルアップ・多様化・拡大化 ○環境イベントなどへの積極的な参加を通じた活動の発信・啓発 などに取組みます。また、幅広い世代をサポーターに取り込むため、平成25年度から継続して、本市の新規採用職員によるボランティア活動の受入れ等を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	環境学習サポーター月例学習会参加者数 出前講演を利用するなど、本市の施策等様々な分野について、サポーター会及び各サポーターの向学のための自主的な学習の場として機能しており、今後の活動にさらなる広がりを持たせているため、その参加人数を指標としています。目標値は月平均30名の参加を見込んだものです。	347 人	360 人		
	環境学習サポーター館内活動延べ人数 館内で、様々なエコ工作や環境実験などのアクティビティを通じて、来館者へ環境問題にかかる「気づき」を与える活動への参加者数で、人材活用を表す指標です。目標値は、一日平均7~8人の参加を見込んだものです。	2,538 人	2,200 人		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

						担当局	環境局	
						担当課	環境学習課	
						課長名	池田	
						施策番号		
						I - 3 - (3) - ②		
事業名	環境人財育成事業						事業手法	
	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組めます。						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.15 人	
		16,019 千円	千円			10,975 千円	係長 0.40 人 職員 0.70 人	
						(人件費備考)		

## 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	①次世代を担う環境人財を育成するため、あらゆる世代・主体が環境保全の取組みに参加できる仕組みづくりが必要です。 ②環境首都検定では、小学校受検数が増加し前年度受検数は上回りましたが、目標数には達しませんでした。今後、多くの人が受検したくなるよう、見直しや効果的な普及啓発を進める必要があります。	見直し内容	・環境首都検定において、イベントでのPRや、合格者へのインセンティブを充実させるなど、受検者増加のための工夫を取り入れる必要があります。また、高齢者や受検会場(小倉北区西日本総合展示場)から離れた地域に住む人にとって受検しやすい仕組みづくりも検討し、受検者が満足できる検定となるよう工夫していきます。 ・市民の意識向上を目指した事業やツールの検討を行います。
----	-------------------	--	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	検定の実施により、市民の環境への学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。また、市民が北九州市の環境について精通することを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)	2,141 人	5,000 人		
	受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指すために、検定受検者数を指標に設定しました。				
	(最終目標と目標年度) 平成28年度 5,500人				

活動計画	どうやって目的を達成するか	環境首都検定については、 ○企業や団体への、メールやチラシ等による幅広い広報やイベントでのPR ○前回受検者や大学、教育委員会を通じた小学校への呼びかけ ○アプリの広報により、受検者が楽しく学べる仕組みづくり ○応援団制度の拡充による、受検者や合格者へのインセンティブの充実や、継続した表彰制度 ○受検しやすい試みの実施 など受検者増加に向けた効果的な取組みを進めます。 環境意識の向上を目指した事業やツールを活用し、幅広い層の環境活動への取組みを促します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	受検啓発・PRの実施回数	7 回	7 回		
	検定受検者数増加を目指し、イベント等において検定のPR活動を行います。(響エコフェスタやエコライフステージでのミニ検定実施、市民カレッジでの講座、市民センターでの「地域デビュー支援事業」等)				
	団体での受検数	69 団体	90 団体		
	学校や企業、市民団体等、グループ受検することでの受検を推進し、受検者数の増加をめざします。				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

					担当局	環境局	
					担当課	環境学習課	
					課長名	池田	
事業名	ESD活動支援事業					施策番号	
						I - 3 - (3) - ③	
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。					■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 ■ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ( )	
							コスト
事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	係長 0.50 人	(人件費備考)	
	17,441 千円	千円			職員 0.60 人		

## 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	ESDの概念が広範で抽象的であることなどから、「アンケート調査」におけるESD認知度が目標に達していません。ESDを認知していなかった市民が活動の重要性を認識・理解し、実践活動に参加しやすい基盤を整えるなど、普及啓発を効果的に進めていく必要があります。	見直し内容	「国連 ESD10年」の最終年会合(2014年開催)において世界で共有されたさらなるESD推進強化をふまえ、世界会合の成果文書や国の動向等を注視しながら、提案国である推進拠点ROEの一つとして、「ESDの10年」以降の普及のあり方を見直します。具体的にはポスト2014年として全市の普及と活動を一層の活発化に向け、地域に根ざしたESD活動のあり方や多様な主体による協働の仕組み等を盛り込んだ計画の策定などに取組みます。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	「持続可能な社会づくり」を担う人財を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取組むESD活動の全市民的な普及拡大を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	市民のESD活動の認識の向上と活動の普及 ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気付き、地域で既に実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠ですが、一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度) 認識の向上と活動の普及	—	認識の向上と活動の普及			
	アンケート調査におけるESD認知度 活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 20% 平成36年度	5.1 %	8 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	○全市民的普及に向けたESD推進のあり方を幅広い分野・世代で議論する場の設置 ○市民センター等を拠点としたESDの普及活動 ○ユネスコスクールや、市内10大学が連携した「まなびとESDステーション」との連携強化 などに取組みます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	活動団体登録数 本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。	75 団体	前年度比増			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
						課長名	久保
事業名	環境国際協力推進事業					施策番号	
						II - 3 - (4) - ②	
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		9,940 千円	千円			6,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.60 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度は、マレーシア・ハントワジャヤ特別市やインドネシア・バリクパパン市などの都市で環境国際協力事業を展開しました。平成27年度についても、国際機関等と連携しながら、効率よく、効果的に活動を行います。	見直し内容 外部資金を活用しながら活動を行うため、相手国や都市のニーズに応じた環境国際協力を提案できるよう、各国・各都市の状況やニーズを把握に努め国際機関や都市間のネットワーク等を活用し引き続き良好な都市間の関係構築に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 本市 市内企業 途上国諸都市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 国、国際機関等の補助事業を活用しながら、都市間連携協力による環境国際協力及び環協国際ビジネスの実施を通じた地球環境保全や地球規模での持続可能な社会を実現し、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現をめざします。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	戦略的環境国際協力事業の件数(累計)	5 件	5 件			
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力をめざします。					
	(最終目標と目標年度) 6件 平成28年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 独立行政法人国際協力機構の草の根技術協力事業および一般財団法人自治体国際化協会の事業等を活用し、廃棄物分野や環境教育分野等において環境国際協力事業を展開していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	事業実施に係る現地派遣回数(累計)	12 回	12 回			
	環境国際協力事業の実施にあたり、技術指導、現地協議などのために職員を現地に派遣します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
						課長名	久保
<b>事業名</b>	アジアの環境人材育成拠点形成事業					施策番号	
						II - 3 - (4) - ②	
<b>事業概要</b>	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取組の一貫であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。					■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		1,780 千円	千円			4,400 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 平成25年度は、公益財団法人国際技術協力協会(KITA)及び環境国際戦略課で受け入れた研修生は993人でした。平成27年についても、KITAや独立行政法人国際協力機構(JICA)との連携を図りながら研修員の受入れを推進していきます。	<b>見直し内容</b>	事業は順調に推移しており、引き続きKITAやJICAとの連携を図りながら事業を実施していきます。また、引き続き、研修内容については、時代の変遷に伴う新規研修プログラムを構築していくなど、相手国・都市のニーズに応じた研修を実施し、事業の魅力を高めるよう努めるとともに、国内外での研修誘致に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 本市 市内企業 アジアの諸都市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) アジア諸都市の行政官等を対象とした研修を実施することにより、現地での環境改善において中心的な役割を果たす人材の育成を図ります。また、同時に、研修の実施をとおして、本市職員や関係機関職員の能力開発を行うことにより、アジアの環境人材育成拠点をめざし、ひいては環協国際ビジネスへの展開を目指します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数(単年度)	993 人	450 人		
	アジアの諸都市が、自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材の育成を行います。 (最終目標と目標年度) 450人受入 平成28年度				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、相手国のニーズにあった研修を実施するとともに、国内外での本市への研修誘致を進めます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	国内外での北九州市への研修誘致(単年度)	5 回	3 回		
	本市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPRを実施するなどして研修誘致を行います。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	業務課
							課長名	檜木野
<b>事業名</b>	まち美化等啓発事業						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (1) - ③	
<b>事業概要</b>	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、春の「クリーン北九州」まち美化キャンペーン、秋の「市民いっせいまち美化の日」などのまち美化事業を実施し、市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進します。						<b>事業手法</b>	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人	
		3,751 千円	千円			3,075 千円	係長 0.10 人	
							職員 0.20 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	成果指標は、126,287人(達成率101%)、54%(達成率90%)となり、ほぼ目標どおりの成果を得ることができています。経済性、効率性の観点から、市民、団体等への広報や参加申込みは、チラシの配布等を工夫し、より一層利用しやすくなることが可能と思われます。	<b>見直し内容</b>
			インターネットでの広報や参加申請を利用しやすくし、チラシ等についても効率的な配布を行うことで、より多くの方々に清掃に参加していただけるよう取り組んでいきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、企業、ボランティア団体等	ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、清掃活動等のまち美化事業を実施することで、まち美化に対する意識の高揚・定着を図っていきます。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	まち美化ボランティア清掃参加者数(単年度)	126,287 人	138,000 人		
	まち美化意識の高揚を図るため、「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)、「市民いっせいまち美化の日」(秋)を設定し、市内でのまち美化清掃や啓発行事を行い、参加者の増加に努めます。 (最終目標と目標年度) 138,000人(平成27年度)				
	アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	54 %	60 %		
	市民のまち美化意識の定着を図り、アンケート調査における地域でのまち美化清掃が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合が増えるように努めます。 (最終目標と目標年度) 60%(平成27年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	市民・団体がきれいな環境づくり・モラルマナーの向上に関心を高めることを目的に、いっせいまち美化を北九州市衛生総連合会と共同で呼びかけ清掃参加者数の増加に努めます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	まち美化キャンペーン(春)のボランティア団体への呼びかけ数	174 団体	190 団体		
	「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)において、キャンペーン期間(5/30~6/30)にボランティア清掃を呼びかけている登録団体数。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p>

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境産業推進課
						課長名	齋村
<b>事業名</b>	新規環境産業創出事業(北九州エコプレミアム産業創造事業)					施策番号	
						IV - 1 - (1) - ④	
<b>事業概要</b>	市内で生産されている環境配慮型製品や環境負荷低減に寄与するサービスを「北九州エコプレミアム」として選定し、広くPRを行うことにより、販売促進を支援します。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
							(人件費備考)
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		3,474 千円	千円		5,825 千円	係長	0.30 人
						職員	0.30 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	活動や成果は目標のペースで推移しており、平成25年度までにエコプロダクツ146件、エコサービス35件、合計181件を選定しています。引き続き、北九州エコプレミアムの知名度向上と選定企業の営業活動促進のためPR活動を行います。	環境見本市「エコテクノ」等への出展のほか、エコタウンセンターや消費生活センターでの常設展示、環境産業推進会議でのカタログ配布等、新たな経費を使うことなく効果的なPR活動を行います。また、エコプロダクツへの出展や産業経済局等と相互連携を図り、販売促進につながるようなPR策の検討を行います。
		<b>見直し内容</b>	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市内で製造される製品や、市内で提供されるサービス	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 環境への負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた製品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、北九州発のエコプレミアムを選定しています。選定された製品・サービスは北九州市がPRのバックアップを行い、販売促進につながることを目的としています。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	エコプレミアム選定件数(単年度) 選定された製品・サービスが、この事業によりどれだけ販売促進につながったかを具体的な数値で表すことは情報が得られないため、選定件数を指標とします。 (最終目標と目標年度)累計200件選定 平成27年度	10 件 (累計181件)	10 件 (累計 200件)		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ・平成27年度までに、エコプレミアムの累計200件選定に向けて、市内企業の掘り起こしを行っていきます。 ・紹介カタログを作成するとともに、西日本総合展示場で開催する環境見本市「エコテクノ」への出典などによりPRします。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>
	北九州エコプレミアムのPR活動 エコプレミアムの累計200件選定(平成27年度)を目標として、市内企業の掘り起こしを行います。また、環境見本市「エコテクノ」への出展、エコタウンセンターでの常設展示や環境産業推進会議でのチラシ配布等、様々なPR活動を行います。	効果的なPRの実施	効果的なPRの実施

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	水素社会創造課
						課長名	田原
事業名	北九州スマートコミュニティ推進事業					施策番号	
						V - 1 - (4) - ①	
事業概要	「北九州スマートコミュニティ推進事業」は、産学官民の英知と志を結集し、基幹システムとの協調の下、地域エネルギーマネジメントのあるべき姿を具体化し、「ライフスタイル」「ビジネススタイル」、さらには、市のまちづくりを変革することで、低炭素社会のあるべき社会構造を構築するものです。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人	
		40,000 千円	千円		20,950 千円	係長 1.00 人 職員 1.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 平成26年度で前身の「北九州スマートコミュニティ創造事業」は終了。国内最先端として築いてきた北九州スマートコミュニティを継続運営し、国内外へ更に展開することができるかが課題。	見直し内容	・世界最先端のスマートコミュニティとして認知された東田地区で、これから訪れる水素社会において、更なる低炭素化を目指した電気、熱、水素などの複合的なエネルギーコミュニティの構築を見据え、北九州スマートコミュニティの維持・発展を推進するもの。 ・東田地区の持つ、エネルギー供給の特殊性を生かし、更なる最先端のエネルギーマネジメントの仕組を目指すとともに、周辺地域とも連携したスマートシティのまちづくり構築を策定する。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 八幡東区東田地区を実証地域として社会インフラを含むコミュニティ	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) スマートグリッドを核として、ライフスタイル、ビジネススタイルなどの変革を目指します。こうした取組みを通じて、国内外に先駆けCO2の50%削減と豊かな市民生活が両立した社会を実現するとともに、北九州発のグリーンイノベーションを起こし、国内外にビジネススペースで技術移転することで、地域経済の成長につなげます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域社会が参加するエネルギーコミュニティの実現	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	平成17年度市内一般街区と比較して、約50%のCO2削減を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成17年度市内一般街区比較、50%CO2削減を継続・維持すること 平成27年度	地域節電所を中心に各エネルギーマネジメントシステムを連携して、地区におけるエネルギーマネジメントを実施	平成17年度市内一般街区比 50%削減		
	地域経済の浮揚 関連製品市内企業売上や雇用の創出を目指します。 (最終目標と目標年度) 関連製品市内企業売上約70億円、雇用70人の創出 平成27年度	各企業が製品開発へ向けて実証を行った。	売上70億円 雇用70人		

活動計画	どうやって目的を達成するか 北九州スマートコミュニティ創造事業の成果を生かして、環境共生まちづくりをさらに進化、発展させるために、最先端設備を維持する。また、これまでの取組が無駄にならないように、更なる最先端のエネルギーマネジメントの仕組を目指すと共に周辺地域とも連携したスマートシティのまちづくり構築を策定する。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 最先端設備の維持	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	平成27年度は、前身事業で設置された地域エネルギーマネジメントシステム、ビルエネルギーマネジメントシステムなど、7設備の維持を指標と設定しました。	-	7 設備		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	環境局		
		担当課	地域エネルギー推進課		
		課長名	石田		
<b>事業概要</b>		施策番号			
事業名	新エネルギー等設備導入支援事業				V - 1 - (4) - ②
事業概要	本市は北九州市環境モデル都市行動計画(北九州グリーンフロンティアプラン)を平成21年3月に策定し、低炭素社会づくりを目指しています。本事業は、家庭部門での地球温暖化対策を推進するため、「家庭用燃料電池(エネファーム)」を設置する市民に対し、市が設備費用の一部を補助することで、当該設備の導入を促進するとともに、地域産業振興を推進することを目的とします。また、家庭での地球温暖化防止に対する市民の意識向上を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		7,200 千円	千円		3,825 千円
					課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人 (人件費備考)

### 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 募集件数以上の応募があり、補助事業としては大変順調です。また、本市での導入台数は、平成24年度の補助事業開始後から大幅に増加し、補助金が普及支援につながっていると考えられます。しかし、使用者から光熱費が増えたといった報告もあり、機器の効率的利用を推進するとともに、市民の省エネ意識向上に向けた取組を行う必要があります。	見直し内容	補助金交付前、補助金交付後(翌年)にアンケートによる意識調査を行い、市民の省エネ意識を調査を行います。また、補助金交付者を対象に稼働状況報告を通じた見える化の実施とともに、エネファームの使い方について資料を配布するなどして、機器の効率的利用の推進、省エネ意識向上を図ります。
----	--	-------	---

### 【Plan】計画

### 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	新エネルギー等設備設置の補助事業を活用し、市内家庭部門の地球温暖化防止を進めます。 市民への意識啓発を行い、市民一人一人が地球温暖化防止にむけて行動するような状態を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	家庭での地球温暖化防止のための市民意識向上 補助金交付者を対象としたエネファームの稼働状況報告により、市民一人一人のCO2排出量削減を意識した行動を促すと同時に意識調査を実施します。 ・稼働状況報告を実施 ・補助金交付決定者を対象としたアンケートによる意識調査を実施 (最終目標と目標年度)市民一人ひとりが地球温暖化防止に向けて行動するようになる。 平成30年度	平成26年度にアンケート実施予定	・アンケート実施 ・稼働状況報告実施			

活動計画	どうやって目的を達成するか	家庭用燃料電池(エネファーム)の導入に対する補助制度を実施します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	家庭用燃料電池(エネファーム)導入件数(市が補助を行ったもの) 地球温暖化対策を推進していくために、温室効果ガス削減につながる家庭用燃料電池の導入を補助金交付により推進し、その導入件数を把握します。※目標値は、前年度実績に補助予定分の導入量を加えたものです。	150 件	150 件			

### 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	地域エネルギー推進課
						課長名	石田
事業名	地域エネルギー政策推進事業					施策番号	
						V - 1 - (4) - ③	
事業概要	東日本大震災を契機とした電力不足・電気料金値上げの問題を受け、市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域に供給することを目指し、本市の新成長戦略の主要プロジェクトとして「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」に取り組んでいます。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (事業者が主体で取組む)
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.40 人	(人件費備考)
		8,000 千円	千円		26,100 千円	係長 1.10 人 職員 1.40 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年は、地域エネルギー会議を開催し、洋上風力発電、高効率火力発電の立地促進、地域エネルギーマネジメントの実現に向けた検討を実施しました。本市のエネルギー都市としてのポテンシャルの高さが、多くのエネルギー企業に認知され、事業は順調に進行しています。今後は、エネルギー企業への発電所立地を促進します。また、地域で生み出したエネルギーを地域へ還元するため、「(仮称)地域エネルギー会社」の設立に向けて取り組めます。	見直し内容 事業は順調に推移しており、引き続き、市内企業をはじめとする事業者と連携を図りながら事業を実施していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内事業者	市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域(市内事業者)に供給することを目指しています。			
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	洋上風力発電所・高効率火力発電所の立地	会議体の意見等を参考に更なる検討実施	早期事業化に向けた支援実施		
	低炭素・安定・安価な電気を供給するため、本市の高いポテンシャルを活かし、洋上風力発電や高効率火力発電を立地します。 (最終目標と目標年度)火力発電所・風力発電所: 平成28年度から随時立地				
	地域エネルギー会社の設立 「(仮称)地域エネルギー会社」を設立し、市内の各種発電から電気を購入・市内事業者への安定・安価な電気を供給します。 (最終目標と目標年度)事業開始 平成28年度	会議体の意見等を参考に更なる検討実施	会社設立		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・当事業の実現に向けて、情報発信をすることでエネルギー企業への発電所立地を促進します。 ・市内事業者と意見交換を通じて、事業の周知や情報の収集を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	エネルギー企業への情報発信・協議、市内企業との協議	23 件			
	エネルギー企業への情報発信・協議、市内事業者と協議を行い、事業の周知や情報収集を行います。		20 件		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境学習課
<b>事業名</b> 市民環境力支援事業						課長名	池田
						施策番号	
<b>事業概要</b> 市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組みを生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行います。						事業手法	
						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.15 人
		21,519 千円	千円			10,225 千円	係長 0.25 人 職員 0.80 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。	見直し内容	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大や幅広い層への環境意識啓発を図るため、情報発信・PR支援を進めています。 ・環境モデル都市の趣旨である低炭素社会の理解や取組みを啓発するため、PRの手法を検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組みを産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	エコライフステージ参加者数(単年度) 参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度) 74万人以上 平成28年度	166.2 万人	74 万人		
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度) 市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	-	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・環境モデル都市を促進する活動を推進するため、多くの市民が集まるイベント等での発信や、補助事業・活動のPRを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	エコライフステージ行事数 行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。	271 行事	200 行事		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
						課長名	梶原
<b>事業名</b>	古紙リサイクル推進事業					施策番号	
						VI - 1 - (1) - ②	
<b>事業概要</b>	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)
							<b>コスト</b>
事業費	254,038 千円	千円			3,325 千円		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約12%も含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。	<b>見直し内容</b>
			古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 古紙回収量	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約12%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	古紙の年間回収量の増加(単年度)	27,784 トン	28,580 トン			
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。 (最終目標と目標年度) 1人あたり(対21年度(50.1kg)比)10%回収量の増加 平成32年度					
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	130 団体	136 団体			
未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 全136団体の参加 毎年度						

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ・特に市民にとって分別が判りにくい「雑がみ」について回収強化を図ります。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域のまちづくり協議会に対して、積極的に集団資源回収への参加を呼びかけます。また、ていんプレスへの掲載や出前講座、古紙リサイクルバスツアー等を通じて古紙回収についての周知を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	未登録団体への個別訪問件数	8 団体	6 団体		
	集団資源回収に未参加のまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。				
	広報活動の実施	20 回	単年度目標設定なし		
	市HPやていんプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	環境局		
		担当課	循環社会推進課		
		課長名	梶原		
<b>事業概要</b>		施策番号			
事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業				VI - 1 - (1) - ③
事業概要	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	課長 0.05 人
		9,716 千円	千円		係長 0.25 人 職員 1.15 人
				目安の金額	(人件費備考)
				11,700 千円	

### 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 剪定枝については、家庭でのリサイクルが困難であることから、引き続き剪定枝に関するリサイクル活動への支援を行う必要があります。 廃食用油については、約30カ所の民間スーパー等で廃食用油を回収しているなど、地域における状況が大きく変化しており、適切な回収拠点等の確認を行う必要があります。	見直し内容	剪定枝については、複数の団体の回収日を同一日にする等作業の効率化を図ることで、事業費を削減し、引き続き剪定枝のリサイクル支援を行います。 廃食用油については、引き続き市民の利便性を考慮した回収拠点による廃食用油の回収を行います。
----	--	-------	---

### 【Plan】計画

### 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域団体	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協調的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。			
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民1人1日あたりの家庭ごみ量	505 g	495 g		
	平成21年度:506g⇒平成32年度:470g以下 (最終目標と目標年度)470g以下 平成32年度				
	3Rの意識の醸成	-	3Rの意識醸成		
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度) 3Rの意識醸成 毎年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 家庭から排出された剪定枝及び廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、市民が参加しやすい体制の整備を図るとともに、剪定枝、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標
	広報活動の実施	12 回	単年度目標設定なし
	出前講演やちらし等の配布による広報活動を実施します。		
剪定枝、廃食用油の回収及びリサイクル	剪定枝174.74t 廃食用油6,497ℓ	単年度目標設定なし	
	地域団体等の自主的な活動より回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、家庭ごみ量の減量化及びリサイクル率の向上を目指します。		

### 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点
-----------	---

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境学習課
<b>事業名</b>						課長名	池田
						<b>事業概要</b>	
市民環境力支援事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組みを生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行います。							
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.15 人
		21,519 千円	千円			10,225 千円	係長 0.25 人 職員 0.80 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。	<b>見直し内容</b>	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大や幅広い層への環境意識啓発を図るため、情報発信・PR支援を進めています。 ・環境モデル都市の趣旨である低炭素社会の理解や取組みを啓発するため、PRの手法を検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組みを産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) エコライフステージ参加者数(単年度) 参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)74万人以上(平成28年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 166.2 万人	<b>27年度目標</b>	74 万人	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度) 市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	-	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大を目指します。			

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・環境モデル都市を促進する活動を推進するため、多くの市民が集まるイベント等での発信や、補助事業・活動のPRを行います。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) エコライフステージ行事数 行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 271 行事	<b>27年度目標</b>	200 行事	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境学習課
						課長名	池田
<b>事業名</b>	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務					施策番号	
						VI - 1 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	北九州市の環境の取組みの歴史を継承するとともに、本市の環境力をさらに高めるため、学習・情報発信・活動の3つの機能を備えた、環境学習拠点「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営を行います。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.15 人
		75,910 千円	千円		9,225 千円	係長	0.30 人
						職員	0.60 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	平成26年度以降の指定管理者選定にあたり、さらに多くの市民等から愛される魅力的なミュージアムとなるよう、今後のミュージアムのあり方をふまえた提案を募集するとともに、環境学習拠点として機能強化を図る新たな手法の検討が必要です。	<b>見直し内容</b> 環境学習・活動・交流拠点としての進化を目指し、 ①「環境コンシェルジュ」の設置 ②公害の歴史を継承し、形骸化させないための取組み ③継続した人材の育成などを行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民及び国内外の人々	市民をはじめ、本市を訪れる国内外の人々が、環境ミュージアムに来館し、そこで開催されるイベントをはじめ、また「出張環境ミュージアム」に参加することを通じて、「環境」について、気軽に見て・感じて・学び、そして交流・協働し、取組みを実践することを目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	環境ミュージアム利用者数(単年度)	131,851 人	130,000 人		
	環境教育・学習の中心的な役割を果たし、市内のみならず、国内外、さらに子どもから社会人、お年寄りまでの幅広い年齢層が集まる場であるため、指標としました。開館以来1度だけ突破したことがあるハードルの13万人を目標に掲げました。 (最終目標と目標年度) 130,000人(平成30年度)				
	(最終目標と目標年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ○環境学習コンシェルジュによる、環境学習施設等のネットワークの強化と、それを活かした効果的な学習支援 ○当館の資源を活用して、本市の歴史を振り返り、公害の深まり学習「青空学」の立ち上げにあたり、キックオフイベントを開催 ○幅広い世代の各ニーズに応じたプログラムの充実 などに取組みます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	イベントや企画展の開催件数	131 回	100 回		
	より多くの市民に来館していただき、市民・スタッフ・サポーターが対話を通して交流しながら情報提供を行うためには、より多くの企画展やイベントを開催することが大切です。目標値である100回は、年間の土日の日数です。				
	スタッフ・環境学習サポーターの出張環境ミュージアム回数 学校や市民センター、市の主催するイベント等、様々な場所へも出張し、数々のエコ工作や環境実験などのアクティビティを参加者とともに行うことで、市民に対し、学習機会を提供できると考えました。目標値である100回は、年間の土日の日数です。	108 回	100 回		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

					担当局	環境局	
					担当課	環境学習課	
					課長名	池田	
事業名	ESD活動支援事業					施策番号	
						VI - 1 - (2) - ②	
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
							コスト
事業費	17,441 千円					12,950 千円	

## 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	ESDの概念が広範で抽象的であることなどから、「アンケート調査」におけるESD認知度が目標に達していません。ESDを認知していなかった市民が活動の重要性を認識・理解し、実践活動に参加しやすい基盤を整えるなど、普及啓発を効果的に進めていく必要があります。	見直し内容	「国連 ESD10年」の最終年会合(2014年開催)において世界で共有されたさらなるESD推進強化をふまえ、世界会合の成果文書や国の動向等を注視しながら、提案国である推進拠点ROEの一つとして、「ESDの10年」以降の普及のあり方を見直します。具体的にはポスト2014年として全市の普及と活動を一層の活発化に向け、地域に根ざしたESD活動のあり方や多様な主体による協働の仕組み等を盛り込んだ計画の策定などに取組みます。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	「持続可能な社会づくり」を担う人財を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取組むESD活動の全市民的な普及拡大を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	市民のESD活動の認識の向上と活動の普及 ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気付き、地域で既に実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠ですが、一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度) 認識の向上と活動の普及 平成36年度	—	認識の向上と活動の普及			
	アンケート調査におけるESD認知度 活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 20% 平成36年度	5.1 %	8 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	○全市民的普及に向けたESD推進のあり方を幅広い分野・世代で議論する場の設置 ○市民センター等を拠点としたESDの普及活動 ○ユネスコスクールや、市内10大学が連携した「まなびとESDステーション」との連携強化 などに取組みます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	活動団体登録数 本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。	75 団体	前年度比増			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

						担当局	環境局	
						担当課	環境学習課	
						課長名	池田	
						施策番号		
						VI - 1 - (2) - ②		
事業名	環境人財育成事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組めます。							
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.15 人	
		16,019 千円	千円			10,975 千円	係長 0.40 人 職員 0.70 人	

## 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	①次世代を担う環境人財を育成するため、あらゆる世代・主体が環境保全の取組みに参加できる仕組みづくりが必要です。 ②環境首都検定では、小学校受検数が増加し前年度受検数は上回りましたが、目標数には達しませんでした。今後、多くの人が受検したくなるよう、見直しや効果的な普及啓発を進める必要があります。	見直し内容	・環境首都検定において、イベントでのPRや、合格者へのインセンティブを充実させるなど、受検者増加のための工夫を取り入れる必要があります。また、高齢者や受検会場(小倉北区西日本総合展示場)から離れた地域に住む人にとって受検しやすい仕組みづくりも検討し、受検者が満足できる検定となるよう工夫していきます。 ・市民の意識向上を目指した事業やツールの検討を行います。
----	-------------------	--	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	検定の実施により、市民の環境への学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。また、市民が北九州市の環境について精通することを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)	2,141 人	5,000 人		
	受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指すために、検定受検者数を指標に設定しました。				
	(最終目標と目標年度) 平成28年度 5,500人				
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	環境首都検定については、 ○企業や団体への、メールやチラシ等による幅広い広報やイベントでのPR ○前回受検者や大学、教育委員会を通じた小学校への呼びかけ ○アプリの広報により、受検者が楽しく学べる仕組みづくり ○応援団制度の拡充による、受検者や合格者へのインセンティブの充実や、継続した表彰制度 ○受検しやすい試みの実施 など受検者増加に向けた効果的な取組みを進めます。 環境意識の向上を目指した事業やツールを活用し、幅広い層の環境活動への取組みを促します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
活動指標	受検啓発・PRの実施回数	7 回	7 回		
	検定受検者数増加を目指し、イベント等において検定のPR活動を行います。(響エコフェスタやエコライフステージでのミニ検定実施、市民カレッジでの講座、市民センターでの「地域デビュー支援事業」等)				
	団体での受検数	69 団体	90 団体		
	学校や企業、市民団体等、グループ受検することでの受検を推進し、受検者数の増加をめざします。				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
<b>事業名</b>						課長名	久保
						<b>事業概要</b>	
<b>事業概要</b>						■ 直営    □ 補助金 □ 全部委託    □ 負担金 □ 一部委託    □ 指定管理 □ その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	
		1,217 千円	千円		2,900 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年のレポート発表以降、さまざまな機会を活用してレポートの普及を行ってきましたが、レポートを活用した市民環境力の向上や、レポート内容の政策への反映、本市のPRなどをより一層進める必要があります。	<b>見直し内容</b>
平成26年度の事業進捗状況を勘案し、今後必要に応じて見直しを行います。			

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民 アジア地域の諸都市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ・市民が本市のグリーン成長について理解を深めることで、「市民環境力」を一層高め、本市の更なるグリーン成長に寄与します。 ・アジア地域をはじめとした諸都市が、本市の協力のもとグリーン成長につながる取組を実施したり、本市の取組を参考にすることで、グリーン成長を推進します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)  「市民環境力」の向上及び今後の政策実行への積極的な関与  市民が、OECDレポートに記載された評価、提言について理解を深め、市民環境力がさらに高まり、今後の本市の取組に積極的に関与することを目指します。 (最終目標と目標年度) 市民向けの広報活動を充実させ、市民への周知および理解度の向上を図ります 毎年度  OECD北九州レポートを活用した本市の施策等のPR  OECD北九州レポートを活用しながら本市の経験、政策、成果等を重要な国際会議等で国内外に向けて発信し、今後の環境国際協力やビジネス展開へとつなげます。 (最終目標と目標年度) さまざまな機会を活用し、レポートの内容のPRを図ります 毎年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績  <b>27年度目標</b>  市民向けの広報活動を充実させ、市民への周知および理解度の向上を図ります  さまざまな機会を活用し、レポートの内容のPRを図ります	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ・主要な市民リーダーにレポートの内容を周知するため、レポートの配布などを含めた広報活動を行います。 ・海外に対するPRの強化のため、英・中・韓の三ヶ国語での情報発信ツールを作成し、広報活動を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)  海外におけるPR活動の実施件数  海外における国際会議などの場で、事例発表を行ったりリーフレットを配布するなどPR活動を実施します	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績  <b>27年度目標</b>  2 回	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	総務課
							課長名	敷田
<b>事業名</b>	環境未来都市広報事業						施策番号	
							VI - 1 - (2) - ③	
<b>事業概要</b>	環境未来都市の認知度の向上及び環境広報の強化のため、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報や、イベント等でのPRを継続して行います。						<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人	(人件費備考)	
		5,605 千円	千円		8,700 千円	係長 0.30 人 職員 0.30 人		

### 【Action】改善

<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	環境未来都市の認知度は前年度より下がりましたが、環境マスコットキャラクターを活用したPR活動により、ターゲットとしている若年層(大学生等)の認知度は向上しました。年齢層に偏りなく、全体的に認知度を高めていく必要があります。	<b>見直し内容</b>	環境関連イベントやPR効果の高いイベント出演し、継続的にPRを行うことにより、環境未来都市の認知度を高めていきます。
-----------	-------------------	---	--------------	--

### 【Plan】計画      【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 環境マスコットキャラクターを環境広報・PRに活用することによって、「環境未来都市」の認知度の向上を図るとともに、市民の環境意識をさらに高めることを目指します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	アンケート調査における環境未来都市選定の認知度	70.9 %	単年度目標設定なし		
	環境マスコットキャラクターを活用した「環境未来都市」の認知度向上に取り組んでいます。アンケート調査における環境未来都市の認知度を指標に設定し、その向上を図ります。北九州市環境未来都市計画の5年間に実施する取組みの最後となるH28年度に80%以上を目指し(最終目標と目標年度)80%以上(平成28年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 環境マスコットキャラクターの環境関連イベントへの出演や、啓発グッズの制作・配布を通じて、市民の目に触れる機会を増やします。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	環境マスコットキャラクターイベント参加回数	130 回	168 回		
	環境関連のイベントへの出演日数や、その他イベントでのブースの出展等の参加日数を増やし、環境マスコットキャラクターと併せて本市環境施策の認知度の向上を図ります。				
	環境マスコットキャラクター使用承認申請数	47 件			
行政機関以外が環境マスコットキャラクターを使用する機会を増やすことで、市民の目に触れる機会を増やします。		60 件			

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	地域エネルギー推進課
						課長名	石田
事業名	中小企業省エネ設備導入促進事業					施策番号	
						VI - 2 - (2) - ①	
事業概要	工場や事業所における一層の省エネルギー対策を推進するため、省エネ設備や新エネ設備を設置する市内の中小企業等に対し、設置費用の一部を補助する事業を実施しています。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考) 平成26年度補正予算で計上し繰越したものの	目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		200,000 千円	千円	千円	4,825 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 事業者の多様なニーズをいかに取り込み、申請時業者を増やすとともに投資効果を高めることが課題であると考えています。	見直し内容	平成25年度に過去の実施状況、補助対象事業、要件の見直しや新たに交付回数制限を設けるなど一部制度改革を行い、さらなる低炭素社会づくりを推進しています。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備を普及させるとともに、市内における投資を促進し、地域産業の活性化を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 補助金活用件数 省エネ設備及び新エネ設備の導入により低炭素社会づくり及び地域産業の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度)前年度同程度 毎年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 102 件	<b>27年度目標</b> 150 件	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	省エネ投資額 本事業は省エネルギー対策の推進とともに市内における投資を促進するため、省エネ投資額(補助対象経費(市内投資額))を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度)前年度同程度 毎年度	485,075 千円	579,000 千円		

活動計画	どうやって目的を達成するか 省エネルギー型設備(高効率空調、高効率照明、高効率ボイラー、節水型便器等)、新エネルギー(太陽光発電、小型風力発電等)を利用した発電設備を複合的に導入する市内の中小企業等に対し、補助対象経費の3分の1以内、1件あたりの限度額300万円で助成を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 北九州市中小企業省エネ設備導入促進事業のPR活動 地元業界団体(北九州電設協会、冷凍空調工業会、北九州設備設計監理協会)や商工会議所の会報やメルマガなどのネットワークを活用したり、北九州市環境産業推進会議やKICSでの制度周知チラシの配布等、様々なPR活動を行います。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 効果的なPRの実施	<b>27年度目標</b> 効果的なPRの実施	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	地域エネルギー推進課
<b>事業名</b>						課長名	石田
						<b>事業概要</b>	
北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	
		9,728 千円	千円		6,150 千円	係長 0.20 人 職員 0.40 人	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 市役所の推進は平成23年度から取り組んでおり、運営面で大幅な省エネ・節電は見込めません。市民向け対策も、参加人員は増加しているが、周知が足りていません。	<b>見直し内容</b>	市役所においては、これまでの省エネ・節電の活動の徹底と、省エネ機器への更新を実施します。教育委員会と協力し、より多くの市民に参加してもらえるように周知を図り、多くの市民の参加を促します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市役所、市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 省エネ・節電を推進するとともに、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	市有施設のエネルギー消費原単位の改善 省エネ・節電の評価指標として、市有施設の総エネルギー使用量の年1%(前年比)以上の改善を指標としました。 (最終目標と目標年度)総エネルギー使用量平成22年度比5%減(平成22年度実績 原油換算89,599kl) 平成27年度	4 %	前年度比 1%減		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、全体会議を開催し、各局における省エネ・節電の全市的な取組みを推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>
	節電推進本部会議開催回数 全庁的な省エネ・節電を推進するため、北九州市節電推進本部を設置し、本部会議を開催します。	4 回	4 回	
	省エネ王コンテスト参加人数 市民向けに家庭での省エネ・節電を推進するため、消費電力削減率により選考する省エネ王活動コンテストを開催します。	915 人	1,000 人	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	環境産業推進課
<b>事業名</b>							課長名	齋村
							<b>事業概要</b>	
環境未来技術開発助成事業							VI - 2 - (2) - ②	
<b>事業概要</b>							<b>事業手法</b>	
循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。							<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.03 人	(人件費備考)	
		50,588 千円	千円		4,595 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度末時点における事業化数は24件、平成25年度の採択件数も11件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、国を挙げて水素社会実現に向けた動きが加速する中で、さらに取組みを進めていく必要があります。	<b>見直し内容</b>
			平成27年度から、本事業の「重点分野」に「水素エネルギーの導入・普及」を新たに追加し、水素エネルギー関連技術の研究開発に取り組む市内中小企業等を積極的に支援することにより、水素社会実現に向けた取組みを推進するとともに、さらに事業化の促進を図っていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証実験等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術集積を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計: 事業化チャレンジ枠分を除く)	24 件	26 件		
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。				
	(最終目標と目標年度) 31件 平成32年度				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成27年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	本助成事業の採択件数(単年度: 事業化チャレンジ枠分を除く)	11 件	10 件		
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
						課長名	梶原
<b>事業名</b>	古紙リサイクル推進事業					施策番号	
						VI - 3 - (1) - ①	
<b>事業概要</b>	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)
							(事業費備考)
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額 254,038 千円	27年度執行額 千円	人件費	3,325 千円	係長 0.05 人	職員 0.30 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約12%も含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。	<b>見直し内容</b>	古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 古紙回収量	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約12%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	古紙の年間回収量の増加(単年度)	27,784 トン	28,580 トン			
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。 (最終目標と目標年度) 1人あたり(対21年度(50.1kg)比)10%回収量の増加 平成32年度					
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	130 団体	136 団体			
未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 全136団体の参加 毎年度						

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ・特に市民にとって分別が判りにくい「雑がみ」について回収強化を図ります。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域のまちづくり協議会に対して、積極的に集団資源回収への参加を呼びかけます。また、ていんプレスへの掲載や出前講座、古紙リサイクルバスツアー等を通じて古紙回収についての周知を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	未登録団体への個別訪問件数	8 団体	6 団体		
	集団資源回収に未参加のまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。				
	広報活動の実施	20 回	単年度目標設定なし		
	市HPやていんプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	環境局	
		担当課	循環社会推進課	
		課長名	梶原	
		施策番号		
		VI - 3 - (1) - ①		
事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業			
	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。			
事業概要	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。			
	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		9,716 千円	千円	
		目安の金額	課長	0.05 人
		11,700 千円	係長	0.25 人
			職員	1.15 人
		(人件費備考)		

## 【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	剪定枝については、家庭でのリサイクルが困難であることから、引き続き剪定枝に関するリサイクル活動への支援を行う必要があります。廃食用油については、約30カ所の民間スーパー等で廃食用油を回収しているなど、地域における状況が大きく変化しており、適切な回収拠点等の確認を行う必要があります。	見直し内容	剪定枝については、複数の団体の回収日を同一日にする等作業の効率化を図ることで、事業費を削減し、引き続き剪定枝のリサイクル支援を行います。廃食用油については、引き続き市民の利便性を考慮した回収拠点による廃食用油の回収を行います。
----	-------------------	---	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域団体	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協調的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民1人1日あたりの家庭ごみ量	505 g	495 g		
	平成21年度:506g⇒平成32年度:470g以下 (最終目標と目標年度)470g以下 平成32年度				
	3Rの意識の醸成	—	3Rの意識醸成		
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度) 3Rの意識醸成 毎年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	家庭から排出された剪定枝及び廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、市民が参加しやすい体制の整備を図るとともに、剪定枝、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	広報活動の実施	12 回	単年度目標設定なし		
	出前講演やちらし等の配布による広報活動を実施します。				
剪定枝、廃食用油の回収及びリサイクル	剪定枝174.74t 廃食用油6,497ℓ		単年度目標設定なし		
	地域団体等の自主的な活動より回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、家庭ごみ量の減量化及びリサイクル率の向上を目指します。				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	循環社会推進課
							課長名	梶原
<b>事業名</b>	循環型社会を形成するための環づくり支援事業						施策番号	
							VI - 3 - (1) - ①	
<b>事業概要</b>	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の推進並びに、生ごみコンポスト化の基礎知識及びコンポスト化容器活用方法等を習得する講座の実施等を通じ、循環型社会の形成を図ります。						<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人	
		6,199 千円	千円		14,825 千円	係長	0.60 人	
						職員	1.10 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 生ごみコンポスト化容器活用講座等やリデュースクッキング講座により、家庭ごみの減量化・資源化に対する市民の環境意識の醸成を図る取組みを検討します。	<b>見直し内容</b>	生ごみコンポスト化容器活用講座等の参加人数を増やすことにより一層の環境意識の醸成を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 生ごみコンポスト化容器を活用した生ごみリサイクル活動、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」を推進することにより、家庭ごみの半分を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	生ごみの減量化	計画の中間目標年度(平成27年度)に、達成率精査予定	単年度目標設定なし(計画の中間目標年度(平成27年)に、達成率精査予定)		
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対平成21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)平成32年度に家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対平成21年度比) (平成21年度は、86, 044トン)				
	3Rの意識醸成	—	3R意識の醸成を図ります		
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)3R意識の醸成					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか リデュース活動推進事業として、生ごみの減量化を図るため、リデュースクッキング講座を開催します。また、リサイクル活動推進事業として、生ごみコンポスト化容器活用講座や、地域生ごみリサイクル講座を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	リデュースクッキング講座	1 回	3 回		
	生ごみ発生抑制となる調理方法や生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の重要性を紹介するリデュースクッキング講座を実施します。				
	生ごみコンポスト化容器活用講座等延べ参加人数	739 人	760 人		
生ごみコンポスト化容器の普及を推進するため、生ごみコンポスト化容器講座等を実施します。					

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
<b>事業名</b>						課長名	梶原
						<b>事業概要</b>	
「北九州市循環型社会形成推進基本計画」推進事業						VI - 3 - (1) - ②	
<b>事業概要</b>						<b>事業手法</b>	
本市では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づき「北九州市循環型社会形成推進基本計画」(本市の一般廃棄物処理計画)を策定し、本計画に基づきごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っています。本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	
		1,435 千円	千円		2,325 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	家庭系ごみ、事業系ごみともに収集制度見直しの効果が近年高止まりしており、「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標値達成のため、ごみの減量化・資源化の取組みをさらに進める必要があります。	<b>見直し内容</b>
			平成27年度は計画の中間見直し年度であり、これまでの取組の効果を詳細に評価し、その結果を基に更なる減量化・資源化と安定的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築に向けた方策を検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、事業者、NPO、行政	今後10年間の先駆的な廃棄物行政のあり方を示す「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づいて、市民、事業者、NPO、行政など地域社会を構成する各主体が連携・協働して取組みを進め、従来の「循環型」の取組みに「低炭素」「自然共生」の取組みを加えた「持続可能な都市のモデル」の実現を目指していきます。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績  <b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	505 g			
	平成21年度: 506g ⇒ 平成32年度: 470g以下 (最終目標と目標年度) 470g以下 平成32年度	495 g			
	一般廃棄物のリサイクル率	25.9 %			
	平成21年度: 30.4% ⇒ 平成32年度: 35%以上 (最終目標と目標年度) 35%以上 平成32年度	32.5 %			

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成23年度に策定した「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標達成のため、さらなるごみの減量とリサイクル率の向上と安定的かつ効率的な廃棄物処理体制に向けて、データを集積して最新の現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績  <b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>
	計画全体の事業実施状況の把握と今後の方向性の決定	各事業のデータ収集等を実施	
	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づき実施された各事業について、その内容及び進捗状況等に関するデータを分析し、今後の方針を検討します。	計画の中間見直し	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局	
						担当課	産業廃棄物対策課	
<b>事業名</b>						課長名	二宮	
						<b>事業概要</b>		施策番号
産業廃棄物処理推進事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
産業廃棄物の適正処理・3Rを推進するため、優れた排出事業者・処理業者への認定やインセンティブ付与、排出・処理動向や将来見通しの分析・公表、産業廃棄物3R・適正処理講習会等を活用した適正処理・3R情報の普及啓発を実施します。 (事業統合により事業名が「産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業」から「産業廃棄物処理推進事業」に変更)								
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額			課長 0.50 人
		10,668 千円	千円		38,250 千円			係長 1.00 人 職員 3.00 人
						(人件費備考)		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	今までは、処理業者中心の講習会でしたが、今後は排出事業者向けの内容も盛り込んでいく必要があると考えています。また、市内事業者が活用できる情報の発信についても検討します。	見直し内容 事業統合を行い、新たな活動指標、成果指標を設定しています。今後は、処理業者だけでなく、排出事業者の育成にも取り組み、認定表彰を行います。また、市内の産業廃棄物の排出・処理動向を把握し、事業者の有用情報として公表します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 産業廃棄物の処理業者や排出事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 処理業者及び排出事業者の育成を行い、産業廃棄物の適正処理・3Rを推進します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	優良産廃処理業者件数(単年度)	5 件	3 件		
	処理業者を育成するため、優良処理業者の認定を実施します。 (最終目標と目標年度) 3件(毎年度)				
	優良排出事業者件数(単年度)	- 件	2 件		
優れた実績及び取り組みを実施している排出事業者を優良業者として認定します。 (最終目標と目標年度) 2件(毎年度)					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 処理業者及び排出事業者の育成を行うため、講習会を開催し、法令の周知、先進的な取組みの紹介等を行います。また、市内産業廃棄物の調査を行い、市内事業者が活用できる情報として公表します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	講習会の開催	- 回	実施		
	処理業者及び排出事業者の育成を行うため講習会を開催し、法令の周知、先進的な取組みの紹介等を行います。また、優れた処理業者、排出事業者の表彰を行います。				
	市内産業廃棄物動向の分析	- 回	実施		
市内事業者が活用できる情報として、北九州市内で排出・処理される産業廃棄物排出量・処理量等の分析を行います。					

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境産業推進課
						課長名	齋村
<b>事業名</b>	北九州エコタウン事業					施策番号	
						VI - 3 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化とリサイクル技術開発の拠点化を図るため、北九州エコタウン事業を推進します。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.05 人
		12,583 千円	千円		4,575 千円		係長 0.10 人 職員 0.40 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 平成25年度は投資額・視察者数いずれも順調であり、今後もさらなる増加を目指します。	<b>見直し内容</b>	エコタウン事業への関心を高めるためにパンフレットやDVDを使ったPRにより力をいれ、視察者数増加のために見学しやすい環境の整備を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) エコタウンを中心とした市内環境関連企業及び研究機関等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) エコタウンを基盤として、本市環境産業の新たな展開を図り、アジアの次世代資源循環型拠点を目指します。 また、エコタウンへの視察者数の増加を目指します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	エコタウン事業による投資額(単年度)	9 億円	5 億円			
	エコタウン事業の高度化を図るためには新たな投資が必要であり、投資額を成果指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 5億円 毎年度					
	北九州エコタウンへの視察者数(単年度)	100,643 人	100,000 人			
	エコタウン事業への関心の高さやビジターズインダストリーという観点から、視察者数を成果目標として設定します。 (最終目標と目標年度) 10万人 毎年度					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 北九州市環境産業推進会議の新エコタウン部会においてエコタウン事業の高度化・高付加価値化に向けた会合を重ねるとともに、新エコタウン部会の下にリチウムイオン電池リユース・リサイクル研究会などを設置し社会システム構築に向けた研究や実証研究等を継続して行っていきます。 また、視察についても、エコタウン企業を視察できる定型コースを設定するなど、視察者が見学しやすい環境を整備していきます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>	
	実証研究数	13 社	12 社			
	実証研究が増加することにより、リサイクル産業の高度化や育成を図ることができるため、実証研究の数も活動指標をして設定します。					

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境産業推進課
<b>事業概要</b>						課長名	齋村
						<b>事業名</b>	
次世代資源循環型産業拠点形成推進事業						VI - 3 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>						■ 直営    □ 補助金 □ 全部委託   □ 負担金 □ 一部委託   □ 指定管理 □ その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.02 人	
		15,000 千円	千円		1,480 千円	係長 0.05 人 職員 0.10 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	事業初年度の平成25年度から多くの申請があり、近年中の事業化が見込まれる有望な研究開発支援に結びついているなど、事業は順調に進んでいますが、国を挙げて水素社会実現に向けた動きが加速する中で、さらに取組みを進めていく必要があります。	<b>見直し内容</b>
			平成27年度から、「事業化チャレンジ枠」の対象となる「最重点分野」に「水素エネルギーの導入・普及」を新たに追加し、水素エネルギー関連技術の研究開発に取り組む市内中小企業等を積極的に支援することにより、水素社会実現に向けた取組みを推進するとともに、さらに事業化の促進を図っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内中小企業等	事業化目前の研究開発への支援により、次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、市内経済の活性化、税収の確保、雇用の拡大等に繋がります。	— 件		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計: 事業化チャレンジ枠分) 本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 2件 平成32年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標	1 件	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成27年度も、次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、市内経済の活性化、税収の確保、雇用の拡大等に繋げていくため、本助成制度を引き続き実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 本助成事業の採択件数(単年度: 事業化チャレンジ枠分) 上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標	2 件	1 件	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境産業推進課
<b>事業名</b>						課長名	齋村
						<b>事業概要</b>	
環境未来技術開発助成事業						VI - 3 - (2) - ②	
循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。						■ 直営    □ 補助金 □ 全部委託   □ 負担金 □ 一部委託   □ 指定管理 □ その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.03 人	
		50,588 千円	千円		4,595 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度末時点における事業化数は24件、平成25年度の採択件数も11件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、国を挙げて水素社会実現に向けた動きが加速する中で、さらに取組みを進めていく必要があります。	<b>見直し内容</b>
			平成27年度から、本事業の「重点分野」に「水素エネルギーの導入・普及」を新たに追加し、水素エネルギー関連技術の研究開発に取り組む市内中小企業等を積極的に支援することにより、水素社会実現に向けた取組みを推進するとともに、さらに事業化の促進を図っていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証実験等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術集積を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計: 事業化チャレンジ枠分を除く) 本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 31件 平成32年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 26 件	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成27年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 本助成事業の採択件数(単年度: 事業化チャレンジ枠分を除く) 上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 10 件	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
<b>事業名</b>						課長名	梶原
						<b>事業概要</b>	
3R活動推進事業						VI - 3 - (3) - ③	
市内の一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等の所有者等に対する資源化・減量化計画書の提出による一般廃棄物の減量化・資源化、適正処理の推進や、個人、市民団体、事業者が行う3R活動を奨励する3R活動推進表彰など、廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生利用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を推進します。						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	
		990 千円	千円		7,325 千円	係長 0.15 人 職員 0.70 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	H25年度は一般廃棄物大量排出事業者など条例対象事業所について、資源化・減量化計画書の提出により一般廃棄物の減量化・資源化を調査指導してありますが、更なるごみ減量意識の醸成を図ります。また、3R表彰について、多くの市民が参加し3R意識がより高まるよう取り組む必要があります。	<b>見直し内容</b>
			条例対象事業所に対して、引き続き計画書の計画書の提出を求めるとともに個別調査を行い、ごみの減量化・資源化を図ります。また、3R表彰の募集内容等の検討を行い、より多くの市民が3R活動推進表彰に参加できるよう実施方法を見直します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 事業者に対する減量化・資源化に関する計画書の提出や3R活動推進表彰の実施等を通じ、3R活動に対する意識の向上やリサイクル率の向上を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 事業所から排出される一般廃棄物の資源化率の向上 事業所に係る資源化・減量化計画書を作成することで、各事業所から発生する廃棄物の減量化・資源化や適正処理を定期的に点検し、廃棄物の減量化・資源化率の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)平成32年度に事業系ごみの8%削減、及び資源化物(事業系)20%増(対H21年度比) ごみの減量やリサイクルなどの3R活動の推進 廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を積極的に取り組んでいる個人、市民団体、事業者を表彰し、これらの活動を奨励します。 (最終目標と目標年度)3R意識の醸成(毎年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績  計画の中間目標(平成27年度)に達成率等を精査する予定	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
			単年度目標設定なし		
			3R意識の醸成		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 事業所から排出される一般廃棄物のリサイクル率の向上を図るため、提出対象事業所の全事業所に資源化・減量化計画書の提出を求めるとともに、訪問調査を行います。また、3R活動に対する意識の向上を図るため、3R活動推進表彰を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 事業所から排出される一般廃棄物の適正処理の点検 資源化・減量化計画書の提出に加え、必要に応じて訪問調査を行います。 3R活動推進表彰に関する市民への広報活動 募集時に、各区・市民センター等へのリーフレット配布のほか、ていんプレス等で3R活動推進賞受賞団体を紹介します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績  33 団体  9 団体	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
			単年度目標設定なし		
			単年度目標設定なし		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	環境科学研究所
<b>事業名</b> 生物多様性戦略推進事業							課長名	佐藤
							施策番号	
<b>事業概要</b> 都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。							<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	
		17,846 千円	千円			11,150 千円	係長 0.25 人 職員 1.00 人	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	多様な自然を保全していくために、市民・団体等の自主的な環境保全活動や市民・団体等との協働による取組みが重要であると同時に、自然環境保全について、継続してPRし、市民の自然環境保全に対する意識の向上を目指していくことが必要です。	<b>見直し内容</b>
			市民に自然環境保全についてPRする手法の1つであるエコツアーの開催について、市主催だけでなく、NPO等が開催する様々な角度から実施するエコツアーを広報し、多くの方の参加を推進します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市の自然環境	多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数) 多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。 毎年度	約2,000 人	2,000 人		
	環境首都100万本植樹プロジェクト推進(累計) 市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (最終目標と目標年度)平成35年度までに累計で100万本植樹します。	497,694 本	536,000 本		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 ・自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数	79,054 本	67,000 本		
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 自然環境保全活動の支援 自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。	10 団体	10 団体		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境科学研究所
						課長名	佐藤
<b>事業名</b>	生物多様性戦略推進事業					施策番号	
						VI - 4 - (1) - ②	
<b>事業概要</b>	都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		17,846 千円	千円		11,150 千円	係長 0.25 人 職員 1.00 人	

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	多様な自然を保全していくために、市民・団体等の自主的な環境保全活動や市民・団体等との協働による取組みが重要であると同時に、自然環境保全について、継続してPRし、市民の自然環境保全に対する意識の向上を目指していくことが必要です。	<b>見直し内容</b>	市民に自然環境保全についてPRする手法の1つであるエコツアーの開催について、市主催だけでなく、NPO等が開催する様々な角度から実施するエコツアーを広報し、多くの方の参加を推進します。
-----------	-------------------	---	--------------	---

## 【Plan】計画      【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	北九州市の自然環境	多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数) 多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。 毎年度	約2,000 人	2,000 人		
	環境首都100万本植樹プロジェクト推進(累計) 市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (最終目標と目標年度)平成35年度までに累計で100万本植樹します。	累計497,694 本	536,000 本		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 ・自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
-------------	---------------	--	--------------	------------------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数	79,054 本	67,000 本		
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 自然環境保全活動の支援 自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。	10 団体	10 団体		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境科学研究所
<b>事業名</b> 響灘ビオトープ運営等事業						課長名	佐藤
						施策番号	
<b>事業概要</b>	本市の豊かな自然環境の保全など、様々な自然分野の取り組みを推進するため、生物多様性基本法に規定される地域戦略として策定した「北九州市生物多様性戦略」の主要プロジェクトに位置づけている響灘ビオトープの運営管理等を行う事業です。絶滅危惧種など希少な動植物が500種類以上も生息する生物の楽園を保全しつつ、市民に見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設です。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額 48,071 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費		目安の金額 6,650 千円

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 平成25年度のガイドツアーの参加者は目標値を達成しており順調であるが、ガイドツアーの参加者数の増加を目指します。	<b>見直し内容</b>	ビオトープへの関心を高めるため、ガイドツアーを含めたイベントの広報に力をいれるとともに、魅力あるビオトープの環境を維持するための整備を行いました。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 緑の拠点としての響灘ビオトープを自然環境教育の場として提供するため、必要な運営内容の整備(エコツアーガイド運営、イベント企画等)を行い、生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」を実現します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 約2000 人	<b>27年度目標</b> 2,000 人	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	響灘ビオトープは「北九州市生物多様性戦略」のリーディングプロジェクトである響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業において、自然環境保全・生物多様性の重要性の啓発等環境学習を行う緑の拠点と位置付けられています。響灘ビオトープのガイドツアーの参加を通じ、自然環境保全・生物多様性の重要性を理解した市民の「北九州市自然環境保全ネットワークの会」が行う様々な保全活動への参加者を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。 毎年度				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 自然環境保全・生物多様性の重要性を啓発し、生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」を実現するため、希望する来園者にガイドツアーを行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 6,457 人	<b>27年度目標</b> 4,000 人	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	来園者に対し、生物多様性の重要性について学べるガイドツアーを行っており、その参加人数を指標としました。1日に15人程度がガイドツアーに参加することを見込んでいます。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	産業廃棄物対策課
							課長名	二宮
<b>事業名</b>	不法投棄防止事業						施策番号	
							VI - 4 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処します。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
								(人件費備考)
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額		目安の金額	課長 0.20 人		
		16,305 千円	千円		15,550 千円	係長 1.10 人 職員 0.30 人		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	不法投棄件数は、経年的に減少傾向にありますが、依然見られます。	<b>見直し内容</b>
			今後も、監視パトロール、市民通報員制度の活用及び監視カメラの整備を継続し、不法投棄物の早期発見・早期撤去や不法投棄の未然防止対策を進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	
	産業廃棄物の不法投棄	未然防止、早期発見及び拡大防止を図ります。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	廃棄物の不法投棄量(単年度)  市内で不法投棄された廃棄物の量。監視パトロール、監視カメラ設置、市民通報員の活用、警察との連携等の結果、廃棄物の不法投棄が減少したことを表す指標として、不法投棄量を設定しました。  (最終目標と目標年度) 160t以下(平成27年度)	90 t	160 t 以下		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、監視パトロールを実施します。		<b>活動の状況</b>	
				活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	監視パトロールの実施回数  不法投棄の未然防止及び早期発見のため、夜間(概ね月2回・2班: 58回)、土日(概ね月1回・2班: 24回)及び早朝・深夜(民間警備会社: 200回)に、不法投棄されやすい箇所を中心に市内全域のパトロールを実施します。(回数は平成27年度計画)	319 回	282 回		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	環境監視課
							課長名	佐々木
<b>事業名</b>	大気汚染常時監視システム整備保守事業						施策番号	
							VI - 4 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内21ヶ所に設置した常時監視測定局を結ぶ通信システムを整備・保守します。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の適正な把握に努めます。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人	
		17,657 千円	千円		6,075 千円	係長	0.10 人	
						職員	0.60 人	
						(人件費備考)		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 平成25年度は計画通りに事業が進捗しました。平成27年度は計画通り測定網を保守し、大気環境の適正な把握に努めていきます。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	<b>見直し内容</b>	計画通り測定網を保守するとともに、課題解決に向け、保守の方法について見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民の健康	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 大気環境の現況を確認することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	大気環境の適正な把握	大気環境の適正な把握	大気環境の適正な把握		
	二酸化いおう等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、大気環境の適正な把握に努めます。				
	(最終目標と目標年度) 大気環境の適正な把握				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 公害監視センターと市内21ヶ所に設置した常時監視測定局を結ぶ通信システムの借り入れ及び保守管理	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>
	大気汚染常時監視測定網の整備・保守	測定の実施	測定の実施
	大気汚染常時監視システムについて、適正かつ効率的に測定網を整備・保守し、正確で継続的な監視を実施します。		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境監視課
						課長名	佐々木
<b>事業名</b>	環境対策事業					施策番号	
						VI - 4 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定(環境モニタリング)などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努めます。また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施します。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		66,095 千円	千円		8,325 千円	係長	0.10 人
						職員	0.90 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	環境モニタリングにより、測定結果や知見の集積が進み、大気、水質等の環境の状況は横ばいで推移、保全されており、従来の環境保全の取組みの有効性が確認されました。今後も良好な環境を維持するため、市内企業に対し、環境モニタリングの結果のフィードバックや法令遵守等を強化させる働きかけが必要です。	市内企業を対象に、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施します。
		<b>見直し内容</b>	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民の健康	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 良好な大気環境及び水質環境等を維持することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	現状の環境を保全	現状の環境を保全	現状の環境を保全		
	大気、水質、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施し、現状の環境の保全に努めます。 (最終目標と目標年度) 現状の環境を保全				
	企業の法令遵守の徹底 法に基づく改善命令が引き続き0件となるよう企業の法令遵守を強化させます。 (最終目標と目標年度) 企業の法令遵守の徹底	—	0 件		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の環境モニタリング等を実施します。また、環境モニタリング結果や法令の解釈、他都市における不適正事案等に関するセミナーを実施します。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	大気・水環境モニタリングの実施	測定の実施	測定の実施		
	大気、騒音、振動、河川、海域等について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します				
	企業を対象としたセミナーの実施 市内企業を対象に、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施します。	—	5 件		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	温暖化対策課
<b>事業名</b>							課長名	作花
							<b>事業概要</b>	
<b>事業概要</b>							<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	(人件費備考)
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人		
		415 千円	千円		3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	<b>見直し内容</b>	費用対効果に優れた取組を、より効率的に行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進し、自動車から排出されるCO2を削減します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度)	179 t	前年度水準を維持		
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度) (最終目標と目標年度) 前年度水準維持 毎年度				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>
	ノーマイカーデー参加企業数	78 社	前年度水準を維持
	ノーマイカーデーに取り組む市内事業者数		
	PRの実施	効果的なPRを実施	効果的なPRを実施します
横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。			

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;"> <b>【成果の状況】</b>  <b>【活動の状況】</b>                      を踏まえた分析                      ※事業手法の有効性、外部要因などの視点                 </div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>「経済性」</b>(同成果を低コストで)  <b>「効率性」</b>(同コストで高成果を)                      の分析                      ※民間活力導入の視点                 </div>

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	温暖化対策課
							課長名	作花
事業名	エコドライブ推進事業						施策番号	
							VI - 4 - (2) - ②	
事業概要	自動車から排出されるCO2削減のため、企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに市民へのエコドライブの普及啓発を図ります。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.10 人
		639 千円	千円			3,650 千円		係長 0.10 人 職員 0.20 人
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	見直し内容	費用対効果に優れた取組を、より効率的に行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車から排出されるCO2の削減		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)</small> エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量(単年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b> 前年度水準を維持	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	参加事業者のCO2の削減量	240 t			
	(最終目標と目標年度) 前年度水準を維持 毎年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 市内事業者へのエコドライブ活動の普及のため、「エコドラ北九州プロジェクト」を実施し、出前講演等を行いエコドライブ活動を支援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明)</small> エコドラ北九州プロジェクト参加事業者数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b> 前年度水準を維持	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者数	52 社			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 <small>※事業手法の有効性、外部要因などの視点</small>
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 <small>※民間活力導入の視点</small>

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局	
							担当課	水素社会創造課	
							課長名	田原	
<b>事業名</b>	燃料電池自動車導入助成事業						施策番号		
							VI - 4 - (2) - ②		
<b>事業概要</b>	地球温暖化の原因であるCO <sub>2</sub> を全く排出しない「究極のエコカー」といわれる燃料電池自動車(FCV)を市内に普及させるため、市内事業者に対し車両購入費の一部助成を行うもの。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.10 人 係長 0.40 人 職員 0.50 人	(人件費備考)
		5,000 千円	千円			8,900 千円			

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	市内の燃料電池自動車の普及促進のインセンティブとするため、市内事業者に対し購入費の一部を助成します。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民及び市内事業者	平成31年度までに市内における燃料電池自動車の普及台数300台を目指します。				
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	市内における燃料電池自動車の普及台数(累計)	-	5 台			
	市内における燃料電池自動車の普及台数 (最終目標と目標年度)平成31年度までに市内で300台	-				
	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>		<b>活動の状況 評価理由</b>
	燃料電池自動車へ転換した場合のCO <sub>2</sub> 削減量(累計)	-	5.9 t			
市内の燃料電池自動車の台数 × 0.118kg(ガソリン車と燃料電池自動車の1km当たりのCO <sub>2</sub> 排出量の差) × 10,000km(年間走行距離) (最終目標と目標年度)平成31年度までに354tのCO <sub>2</sub> 削減	-					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	燃料電池自動車の購入費の一部を助成します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	燃料電池自動車の助成件数	-	5 台		
	市内事業者に対して燃料電池自動車購入費用の一部を助成します。	-			

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	水素社会創造課
<b>事業名</b>							課長名	田原
							<b>事業概要</b>	
<b>事業概要</b>	水素ステーションは、今後の燃料電池自動車普及の基盤となるものであり、1箇所につき約5～6億円の設備投資が見込めることから、引き続き積極的な誘致活動を行うとともに、水素製造拠点に関する課題や可能性、事業所における水素利用方策の検討、研究実証プロジェクトの実施を目的とする水素供給拠点形成連絡会議を開催する。 こうした取組みにより、次世代自動車工場の立地、関連産業の集積を図り、新成長戦略リーディングプロジェクトに掲げる次世代自動車産業拠点の形成を目指す。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)	
		33,400 千円	千円		4,650 千円	係長 0.20 人		
						職員 0.20 人		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	水素ステーションは、今後の燃料電池自動車普及の基盤となるものであり、1箇所につき約5～6億円の設備投資が見込めることから、積極的な誘致活動を行う。	<b>見直し内容</b>
			26年度の事業進捗状況を勘案し、今後必要に応じて見直しを行う。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	水素ステーション	市内に数多く整備され、燃料電池自動車の普及が進んでいる状態を目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	水素ステーションの立地件数	-	1 ヶ所		
	市内における水素ステーションの立地件数を指標とします。 平成32年度までに5カ所の設置を目標とします。 (最終目標と目標年度) 5カ所 平成32年度				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	水素エネルギー関係企業等幅広く訪問し、水素ステーション誘致につなげます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	企業訪問件数	-	20 件		
	水素エネルギー関係企業等を訪問し、情報収集に努めます。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>



## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境監視課
						課長名	佐々木
<b>事業名</b>	大気汚染常時監視システム整備保守事業					施策番号	
						VI - 4 - (2) - ④	
<b>事業概要</b>	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内21ヶ所に設置した常時監視測定局を結ぶ通信システムを整備・保守します。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の適正な把握に努めます。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		17,657 千円	千円		6,075 千円	係長	0.10 人
						職員	0.60 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 平成25年度は計画通りに事業が進捗しました。平成27年度は計画通り測定網を保守し、大気環境の適正な把握に努めています。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	<b>見直し内容</b>	計画通り測定網を保守するとともに、課題解決に向け、保守の方法について見直しを行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民の健康	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 大気環境の現況を確認することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>
	大気環境の適正な把握	大気環境の適正な把握	大気環境の適正な把握		
	光化学オキシダントや微小粒子状物質(PM2.5)等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、大気環境の適正な把握に努めます。				
	(最終目標と目標年度) 大気環境の適正な把握				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 公害監視センターと市内21ヶ所に設置した常時監視測定局を結ぶ通信システムの借り入れ及び保守管理	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>
	大気汚染常時監視測定網の整備・保守	測定の実施	測定の実施		
	大気汚染常時監視システムについて、適正かつ効率的に測定網を整備・保守し、正確で継続的な監視を実施します。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
						課長名	久保
<b>事業名</b>	環境国際協力推進事業					施策番号	
						VII - 1 - (3) - ①	
<b>事業概要</b>	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。					<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		9,940 千円	千円			6,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.60 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度は、マレーシア・ハントワジャヤ特別市やインドネシア・バリクパパン市などの都市で環境国際協力事業を展開しました。平成27年度についても、国際機関等と連携しながら、効率よく、効果的に活動を行います。	<b>見直し内容</b> 外部資金を活用しながら活動を行うため、相手国や都市のニーズに応じた環境国際協力を提案できるよう、各国・各都市の状況やニーズを把握に努め国際機関や都市間のネットワーク等を活用し引き続き良好な都市間の関係構築に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	<b>対象</b> (誰を、何を) 本市 市内企業 途上国諸都市	<b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 国、国際機関等の補助事業を活用しながら、都市間連携協力による環境国際協力及び環協国際ビジネスの実施を通じた地球環境保全や地球規模での持続可能な社会を実現し、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現をめざします。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	戦略的環境国際協力事業の件数(累計)	5 件	5 件			
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力をめざします。					
	(最終目標と目標年度) 6件 平成28年度					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 独立行政法人国際協力機構の草の根技術協力事業および一般財団法人自治体国際化協会の事業等を活用し、廃棄物分野や環境教育分野等において環境国際協力事業を展開していきます。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>	
	事業実施に係る現地派遣回数(累計)	12 回	12 回			
	環境国際協力事業の実施にあたり、技術指導、現地協議などのために職員を現地に派遣します。					

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点



## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局											
							担当課	環境国際戦略課											
<b>事業名</b> 日中大気汚染・省エネ対策共同事業							課長名	久保											
							施策番号		VII - 1 - (3) - ①										
<b>事業概要</b>	中国におけるPM2.5(微小粒子状物質)等をはじめとする大気汚染については、日本への影響も懸念されており、その対策を講じることにについては喫急の課題となっています。本市では、中国都市との連携協力を推進するため、国の事業を活用し、平成26年度から5か年間の予定で中国側の行政官や技術者等の資質向上を目的とした研修生の受け入れや、現状を把握・分析等するための専門家の派遣を行います。また、大気環境のモニタリング、汚染源解析、予報・警報システム、固定発生源対策、自動車対策等の共同事業を行うこととしています。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他											
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; background-color: #000080; color: white;"><b>コスト</b></td> <td style="text-align: center;">27年度当初予算額</td> <td style="text-align: center;">27年度執行額</td> <td style="text-align: center;">(事業費備考)</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">人件費</td> <td style="text-align: center;">目安の金額</td> <td>課長 0.30 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">59,100 千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> <td></td> <td style="text-align: center;">15,950 千円</td> <td>係長 0.50 人 職員 1.00 人</td> <td>(人件費備考)</td> </tr> </table>							<b>コスト</b>	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人	59,100 千円	千円		15,950 千円	係長 0.50 人 職員 1.00 人
<b>コスト</b>	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人													
	59,100 千円	千円			15,950 千円	係長 0.50 人 職員 1.00 人	(人件費備考)												

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題	中国においてPM2.5などの大気汚染が深刻化するなか、「第16回日中韓三カ国環境大臣会合」において「都市間協力を歓迎する」意向が示されたことを受け、本市は国の事業を活用し、中国の大気環境改善に協力していきます。中国都市との協議等を通じて、各都市の状況等を見極め、それぞれに対応していく必要があります。	見直し内容 平成26年度開始事業であり、今後必要に応じて見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 中国の都市におけるPM2.5(微小粒子状物質)をはじめとする大気環境	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 中国の大気汚染対策に協力することで、現地の環境改善に寄与します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	都市間連携協力実施都市数(累計)	—	4 都市		
	中国の大気環境を改善するため、中国諸都市との都市間連携協力を推進します。 (最終目標と目標年度) 4都市 平成26年度～平成30年度				
<b>指標</b>	現地の環境改善 中国側の行政官や技術者等の資質向上を目的とした研修生の受け入れや、現状を把握・分析等するための専門家の派遣を行うとともに、大気環境のモニタリング、汚染源解析等の共同事業を通じて現地の環境改善をめざします。 (最終目標と目標年度) 現地の環境改善 毎年度	-	現地の環境改善		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 日中研究機関等による共同の調査研究を通じ、大気汚染問題における現状把握・課題抽出を行うと共に、専門家派遣や研修員受入事業を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	専門家派遣人数(年度延べ人数)	-	20 人		
	各都市からの研修員を受け入れ、本市の環境政策の講義や環境関連施設の視察を通じ、行政官や技術員の人材育成をめざします	-	20 人		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
<b>事業名</b> アジア低炭素化センター推進事業						課長名	長濱
						施策番号	
<b>事業概要</b> 環境モデル都市に掲げた温室効果ガス削減目標を達成するため、平成22年6月に開設された「アジア低炭素化センター」の事業を推進し、環境に資する多様な技術等を海外に移転することで、地域経済の活性化を推進し、アジア地域の低炭素化社会の実現を目指すものです。						事業手法	
						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
<b>コスト</b>	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 2.05 人	(人件費備考)	
	31,657 千円	千円	人件費	87,200 千円	係長 2.80 人 職員 4.75 人		

### 【Action】改善

<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 H25年度は活動指標のプロジェクト推進数及び企業協議、ビジネスマッチング数ともに目標を上回り、活動状況は順調と判断しました。 成果指標の達成に向けて、CO2をはじめとする温室効果ガスの削減量の定量化に引き続き取り組んでいきます。	<b>見直し内容</b>	アジア地域でのCO2削減に向けて、引き続き各種プロジェクトの推進及び企業協議、ビジネスマッチング等の支援を行っていきます。プロジェクト推進にあたっては、北九州モデルを活用してパッケージ型のインフラ輸出をさらに推進していくとともに、国等からの調査受託事業を活用することで、本市の経費負担削減に努めていきます。
-----------	--	--------------	---

### 【Plan】計画

### 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を) アジア地域	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 企業のビジネス展開を支援し、アジア地域でのCO2排出量を削減します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>成果の状況 評価理由</b>	
	アジア地域でのCO2排出量を削減	-	単年度目標設定なし			
	2050年に、本市の2005年度比で、150%相当のCO2排出量を、アジア地域で削減することを目標とします。 (最終目標と目標年度) 2005年度(1,630トン)比150%削減(2050年)					

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	国からの調査受託事業などを活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。また海外でのビジネス展開を図るため、国内外の商談会への参加支援などを実施します。さらに、海外の各機関、各都市との連携協力を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績 (達成率)</b>	<b>活動の状況 評価理由</b>	
	プロジェクト推進数	58 件	90 件			
	国からの調査受託事業を活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。					
	企業協議、ビジネスマッチング数	443 件	430 件			
	市内企業の海外でのビジネス展開を進めるため、企業との協議を実施するほか、同センターが仲介し、市内企業と相手企業とのビジネスマッチング等を行うことで、ビジネスを支援します。					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	環境局
						担当課	環境国際戦略課
<b>事業名</b>						課長名	本島
						<b>事業概要</b>	
<b>事業概要</b>						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業を対象に、自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での事業可能性調査(FS)、または実証試験に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。							
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	
		8,750 千円	千円		2,325 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人	
						(人件費備考) 担当課のみ、ただし業務の一部を委託しています。	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 成果指標目標2件に対して、平成25年度2件、平成26年度5件を採択。経済性・効率性についても、業務の一部を委託するなどして迅速で効率的な事業運営に努めています。	<b>見直し内容</b>	来年度も引き続き、事業の適正で効率的な実施に努めていきます。また、過年度採択企業の事業化への進捗状況を把握するとともに、可能な支援を適宜講じていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での事業可能性調査(FS)、または実証試験に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	海外での実証事業等の進出数(単年度) 本事業は、市内中小企業の海外への技術輸出推進を目的として、費用の一部を助成するもので、「海外での実証事業等の進出数」を成果指標とします。なお、本来はビジネスでの進出数が指標として望ましいのですが、まずは実証事業等の実績を着実に積み重ねることで、将来的なビジネス進出につなげたいと考えています。 (最終目標と目標年度) 2件 平成27年度	2 件	2 件		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 4月から事業の公募を行い、6月に採択企業を決定します。各企業の事業進捗状況の確認を行い、経費の執行状況についても適宜検査します。また、各企業の事業完了後に事業内容の報告を受けるとともに精算を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	<b>27年度目標</b>	<b>27年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	申請書のダウンロード数 本事業の認知度を判断します。事業を広く周知することで、市内企業の海外展開への意欲向上を図ります。	6 件	10 件		
	採択企業の事業の進捗状況確認件数 採択企業の事業の進捗状況を確認することで、事業の適正な推進を図ります。	2 件	2 件		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

<b>事業概要</b>							担当局	環境局
							担当課	環境国際戦略課
<b>事業名</b>							課長名	園
							<b>事業概要</b>	
<b>事業概要</b>	本市に蓄積された都市環境インフラに係る技術や行政ノウハウ等を体系的に整理した「北九州モデル」を活用し、「北九州市新成長戦略」に掲げた都市インフラビジネスを推進する事業をアジアの新興国で展開します。						<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.50 人	(人件費備考)
		30,000 千円	千円			14,500 千円	係長 0.50 人	
							職員 0.50 人	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H25年度の評価結果を受けての課題 市内企業が海外進出しやすい環境を整備する為に事業を開始しました。グリーンシティマスタープラン作成の段階から参入することが課題です。	<b>見直し内容</b>	平成26年度の成果をふまえ、ベトナム・ハイフォン市、タイ・ラヨン県については、ビジネス化調査を、マレーシア・バシグダン市、ミャンマー・マンダレー市については、基礎調査を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 環境技術を有する市内企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内企業等が海外進出しやすい環境を整備することによって、海外での事業化が進み、地元企業の業績が拡大します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) グリーンシティの輸出を海外の都市に展開 現在、グリーンシティの輸出を推進しているインドネシア・スラバヤ市に続く第2、第3の都市へ事業展開を図ります。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに3都市に輸出	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 2 都市	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 海外とのネットワークを活用したマーケティングセールスを展開し、パッケージ型都市環境インフラの海外輸出を図ります。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 基礎調査及び分野別案件形成を実施した都市数 海外都市における基礎調査及び分野別案件形成の実施がパッケージ型インフラの海外輸出につながるためです。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 4 都市	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点